

令和7年3月20日

令和6年度 塚戸小学校 学校関係者評価報告書

世田谷区立塚戸小学校学校関係者評価委員会

委員長 古屋直子
委員 岡田昌志
委員 鈴木辰満
委員 清水茂男
委員 辻博明
委員 山本敦子
(50音順)

1. はじめに

令和6年度の学校関係者評価アンケートに多くの回答をお寄せいただき、皆さまのご協力に委員一同感謝申し上げます。

令和6年4月、塚戸小学校は新たに130名の新入生を迎える、新設のみのり学級を加えた27学級、858名の児童と60名を超える教職員とスタッフの方々でスタートしました。児童数はやや減少しつつあるものの、都内でもいまだ大規模校と位置づけられる児童数となっています。今年度塚戸小学校は創立149周年を迎える、伝統校ならではの深い学びの中で、『つ』強くやさしい子、『か』考える子、『ど』努力する子を教育目標とし、学校・家庭・地域が一丸となって「じぶんっていいな ともだちっていいな いっぱい見つけよう」を根幹とする教育活動を推進しています。

この数年で、教育活動もさまざまな制限から解放されました。子どもたちが学校や地域の中で元気に学ぶ姿を目にできる機会も増え、保護者同士のつながり、地域のつながりも日常生活での自然な光景となりました。学校では、先生方がよりよい教育を実施すべく、日々一丸となって子どもたちの成長を考えながら教育活動を行い、地域でも、子どもたちが安心安全に学べる環境作りに多くの人々が携わっています。

アンケートがWebによる回答方式に移行したことでの回答率が大きく減少していましたが、Webでのアンケートに慣れて来たこともあり、昨年に引き続き今年度の保護者回答数も増加(17P増加)し、82%の回収率にまで回復してきました。本アンケートで正確な評価を行うためには、アンケートを行う意義を周知し、回収率が更に向かっていくよう次年度以降も務めていきたいと思います。

今年度も、塚戸小学校の更なる教育活動の充実と学校運営改善の一助となることを願い、ご回答をお寄せいただいたアンケート結果と先生方に実施したヒアリング結果を、学校関係者評価委員全員で考察しました。

ここに、令和6年度の学校関係者評価として報告をさせていただきます。

2. 学校関係者評価アンケート調査実施概要と結果

(1) 評価アンケートの案内方法

- ・児童：各クラスの担任の先生から案内
- ・保護者：QRコードを記載した紙での案内に加え、「すぐーる」によるアンケートへの協力の呼びかけ
- ・地域：QRコードを記載した紙での案内を配布

(2) アンケートの回収方式

- ・児童：Webによる回答方式（各クラスでの先生のサポート有）
- ・保護者：Webによる回答方式
- ・地域：Webまたは紙提出による回答方式の併用

(3) アンケートの設問内容について

- ・児童：30項目（世田谷区共通・・・21項目、学校独自・・・9項目）
- ・保護者：41項目（世田谷区共通・・・33項目、学校独自・・・8項目）
- ・地域：19項目（世田谷区共通・・・14項目、学校独自・・・5項目）

※以下、評価の表では、児童の共通項目を児共、保護者の共通項目を保共、地域の共通項目を地共、児童の独自項目を児独、保護者の独自項目を保独、地域の独自項目を地独と記載する。

世田谷区共通項目については、今年度から児童の設問に『学ぶことが楽しい』が加えられた。保護者、地域については、共通項目・独自項目ともに一昨年度、昨年度にからの変更は無かった。

また、昨年度に引き続き、別途Webによる独自の回答形式で、選択式アンケートで回答しきれなかった項目について、任意で追加記述できるアンケートも同時に行った。

(4) アンケートの結果について

以下のとおり、本年度の学校関係者評価アンケートを実施した。集計結果の詳細は、ホームページ掲載の『学校関係者評価アンケート』をご参照いただきたい。

実施対象：5・6年児童、全児童保護者、地域

※地域（学校運営委員・学校支援コーディネーター・民生主任児童委員・TAPの方々・自治会長・児童館長・元PTA会長など）

調査実施期間：令和6年12月5日～12日

	5・6年児童	保護者（全児童数）	地域
配布数	258	810	58
回収数	239	665	24
回収率	93%	82%	41%
(昨年度回収率)	(90%)	(65%)	(37%)

各項目のアンケート結果の数値（%）については、

回答A「とても思う」と回答B「思う」の合計→**肯定的回答**

回答C「あまり思わない」と回答D「思わない」の合計→**否定的回答**

としてまとめた。

また、表にまとめた数値については、昨年度の同等の設問への回答と比較し、

割合が1P（ポイント）以上増加したものは（↗）、

1P（ポイント）以上減少したものは（↘）、

増減が1P（ポイント）未満のものは（→）

とし、昨年度の数値の差をP（ポイント）で記載した。

（ ）の記載の無いものは、今年度内容変更または追加した設問である。

否定的回答の下段の／以降には、「わからない」の回答割合を記載した。

3. 重点目標について

今年度の重点目標は、以下の3点である。

- ・【感動】わくわくしながら探究する学び
- ・【共感】他者の思いや考えを認め合い、尊重し合う学び
- ・【感謝】社会（人）の役に立つ喜びを実感する学び、人とのかかわりを感じる学び

（1）重点目標の周知、理解度について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 共	「本校は、保護者に学校の重点目標を伝 えている」	81% (1P↘) /11% (2P↗)	9% (→) /20% (2P↗)
保 共	「私は、今年度の重点目標を理解してい る。」	52% (1P↗) /20% (2P↗)	28% (3P↘) /0% (12P↘)
地 共	「学校の重点目標が明確である」	92% (4P↗) /0% (12P↘)	8% (8P↗) /0% (12P↘)

重点目標の保護者周知度は、4年生が少し気になるが（昨年3年生時の肯定的回答 89% が 12P↘の 77%、わからないの回答が 11P↗の 17%）、全体では 80%以上に周知できて

いる点は大いに評価できる。地域においても、肯定的回答は4P↗の92%、一昨年度からは7P↗となっている。毎月の学校だよりとして発行される「塚戸だより」の表紙の定位位置に重点目標が記載されている点や、挟み込みで丁寧な説明がされている点が高い周知度に繋がっていると思われる。

しかし、重点目標の理解度となると、依然として全体の半数程度（52%）であり、否定的回答も各学年およそ30%程度と、やや課題が残る結果となっている。「塚戸だより」の重点目標記載の横には、直近の学校行事で子どもたちが経験している様子を絡めながら重点目標の大切さや家庭での理解も得られるような内容を掲載して工夫はされているが、ここに目が行き届かない層への理解が得られるような今少しの工夫が必要かもしれない。保護者会や学校公開など、対面で伝えていけるような場面を更に増やすなど、学年ごと、クラスごとの重点目標への理解を各家庭でも深められるようにしていきたいところである。

また、次年度から土曜授業が無くなることもあり、地域の重点目標への関心度が「子どもたちのより深い学びのためには必要なことである」と評価委員会で判断し、今年度はアンケート対象者を昨年度の46名から58名に増やした。その結果、回答率でも17/46から24/58と4P增加で41%、データー集計期限後で回答を加えられなかった3通を合わせると、昨年の17名から10名増の27名からの回答をいただくことができた。配布にあたってご協力いただいた学校スタッフの方々に心より感謝申し上げます。150周年の次年度に向けて、地域での関心を高め、地域全体で子どもたちの成長を育みながら地域の教育力を幅広く活用していくためにも、この重点目標の周知を含め学校協議会などの開催や地域とのつながりにも引き続き重点をおいていただくことをお願いしたい。

（2）重点目標の各項目について

ア. わくわくしながら探究する学び（感動）

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「学校生活は楽しい」	89% (5P↗) / 9% (4P↘) / 2% (2P↘)	
保 共	「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」	88% (1P↘) / 7% (1P↘) / 5% (2P↗)	
児 共	「学校行事は楽しい」	95% (5P↗) / 4% (1P↘) / 1% (1P↘)	
保 共	「学校行事は子どもにとって楽しい」	95% (2P↘) / 4% (2P↗) / 1% (1P↘)	
児 共	「学校行事は達成感がある」	94% (8P↗) / 5% (5P↘) / 1% (3P↘)	
保 共	「学校行事は子どもにとって達成感がある」	95% (1P↘) / 3% (1P↗) / 2% (1P↗)	

地 共	「学校行事の内容は充実している」	100% (6P↗)	0% (→) / 0% (6P↘)
児 共	「先生は、児童の意欲を大切にしている」	88% (13P↗)	8% (6P↘) / 4% (7P↘)
保 共	「本校は、子どもの意欲を大切にしている」	87% (1P↘)	6% (1P↗) / 7% (→)

「学校生活」や「学校行事」、「先生方の子どもの意欲を大切にする姿勢」に対しては、児童・保護者・地域ともに非常に高い評価が得られている。

「学校生活は楽しい」と感じている児童は6年生では91%、「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」の保護者への設問においても、1年生は97%、6年生も90%と非常に高い評価を得ており、全体でも88%と昨年度とさほど変わりない高い評価であった。しかし、細かく見て行くと、保護者の肯定的回答が2年生で6P↘の84%、4年生でも7P↘の87%と、やや心配な下がり方をしている学年もあった。また同項目の2年生、5年生では、「学校生活は、子どもにとって楽しくない」という否定的な回答が10%を超えており、この点もやや心配である。引き続き、何かしらの対応がここには必要と思われる。

学校行事については、児童への「学校行事は楽しい」の肯定的回答が5年生6年生ともに7P↗と3P↗の95%を超える高評価であった。保護者の肯定的回答も、1年生の100%を筆頭に全学年で90%以上の肯定的回答が得られた。「学校行事は達成感がある」の設問でも、児童の肯定的回答は8P↗の94%、保護者の肯定的回答も、どの学年でも95%近い評価が得られた。また、地域共通項目の「学校行事の内容は充実している」の設問においては、肯定的回答が100%であった。これは、塚戸小での行事の伝統が形を変えながらもきちんと引き継がれている結果なのではないかと思われる。

「先生は、児童の意欲を大切にしている」の設問においても、6年生児童の肯定的回答が昨年5年生時より15P↗の85%、5、6年児童全体でも12P↗の88%の高評価となった。一方、保護者においては、全体では1P↘の87%であるが、2年生では6P↘の83%、4年生は5P↘の85%とやや下がり方が大きかった。いずれも前年度の評価が高かったこともあるが、「児童の意欲を大切にしているかわからない」の数値が10%以上あり、細やかな指導の部分が保護者に伝わらない難しさがあるようだ。今後においても、この点は注視していただきたい。

イ.他者の思いや考えを認め合い、尊重し合う学び（共感）

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間 を授業の中で取っている。」	91% (→)	8% (3P↗) / 1% (3P↘)

児 共	「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」	96% (→) / 1% (→)	3% (→) / 1% (→)
保 共	「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」	86% (→)	4% (3P↙) / 9% (1P↗)
児 独	「話し合いを通して、みんなで決める活動は楽しい」	84% (4P↗)	15% (3P↙) / 1% (2P↙)
保 共	「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」	80% (3P↙)	7% (→) / 13% (3P↗)

「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」の設問での児童の肯定的回答は 91%、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」の設問での児童の肯定的回答は 96%、中でも「とても思う」の回答は 58%と昨年同様非常に高かった。保護者の肯定的回答も、昨年同様全体で 86%と高く、特に、2 年生は肯定的回答が 1 年次より 7P↗で 82%、3 年生も 2 年次より 5P↗の 88%と高評価で、1 年生から 2 年生、2 年生から 3 年生へと他者の思いや考えを認め合い、尊重できる場が徐々に増えていっていることがわかる。この点は非常に高く評価できる。

「話し合いを通して、みんなで決める活動は楽しい」の設問での児童の肯定的回答も、3P↗で 84%と高評価で、「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。」の設問での保護者の肯定的回答も、昨年度より 3P↙ではあるが 80%と比較的高い評価が得られている。

しかしながら、「話し合いを通して、みんなで決める活動が楽しいとは感じられない。」児童も 15%おり、「子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている」への肯定的回答も、2 年生は 8P↙72%、4 年生は 7P↙81%、5 年生は 5P↙76%と、やや心配な下がり方をしている。また、否定的回答も、2 年生は 9P↗の 15%、5 年生も 3P↙ではあるが 11%、わからない回答は 7P↗の 13%とやや高くなっている。この点は、今少し課題が残る。

ウ.社会（人）の役に立つ喜びを実感する学び、人とのかかわりを感じる学び（感謝）

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 独	「本校の高学年の子どもたちは、責任をもって学校行事に取り組んでいる」	88% (3P↙) 11% (3P↗)	2% (1P↗) / 11% (3P↗)
児 独	「友達や周りの人から感謝されることがある」	90% (11P↗) / 2% (6P↙)	8% (5P↙) / 2% (6P↙)

児 独	「周りの人に感謝の気持ちを伝えている」	94% (3 P↗) / 2% (2P↘)	4% (1 P↘) / 2% (2P↘)
保 独	「子どもは、周りの人に感謝の気持ちを伝えている」	72% (5 P↗)	17% (7 P↘) / 11% (1P↗)
保 共	「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」	76% (1 P↗)	6% (3 P↘) / 18% (2 P↗)
地 共	「地域の人や施設を教育活動に活かしている」	88% (6 P↗)	0% (6 P↘) / 13% (1P↗)

「本校の高学年の子どもたちは、責任をもって学校行事に取り組んでいる」の設問への保護者の肯定的回答は3P↘88%と少し評価が下がったが、4、5、6年生の保護者の肯定的回答は、2P↗90%、1P↗90%、3P↗97%と高い評価が得られている。この項目では、2年生の肯定的評価が12P↘74%と評価の下落が気になる。2年生は1年生より高学年生の児童とのかかわりが少ないと理由なのか、他にも理由があるのか、その原因是把握しておきたいところである。

「友達や周りの人から感謝されることがある」の設問への児童の肯定的回答は11P↗90%となり、「周りの人に感謝の気持ちを伝えている」の設問への児童の肯定的回答も3P↗94%と非常に高い数値となった。保護者の「子どもは、周りの人に感謝の気持ちを伝えている」の設問への肯定的回答も5P↗72%と少しではあるが増加した。

本校では、全校遠足や、つかどんタイム、学習発表会など、様々な機会で異学年交流が盛んに行われ、一人一役の実行委員、運動会の係、6年生のタブレット先生や見守り先生、委員会活動、クラブ活動、掃除の時間など、人の役に立つ喜びや人とのかかわり、人への思いやりの気持ちを感じながら学ぶ機会が日常でかなり多く設けられており、その中で「感謝される喜び」を感じる児童が増え、「感謝を伝える」児童が増えたことは、この重点目標を十分に達成できていると言える。

また、「本校は、地域の人や施設を教育活動に活かしている」の設問への保護者と地域の肯定的回答は、1P↗76%と6P↗88%といずれも評価が上がり、特に3年生では9P↗76%、5年生の否定的回答も9P↘5%となるなど、地域の協力に対する保護者の理解が昨年度より増加した。読み聞かせを行う山の木文庫、雅楽や弦楽器などの体験授業を行う保護者ボランティアサークルおたまじやくし、屋上の田んぼの米作りや稻刈りや脱穀体験授業を行う上祖師谷郷土研究会、学校運営委員会、学校支援本部の方々などたくさんの方々が児童の学びへの協力を惜しまず、大きく支えてくださっている。なかよしフェスタ、まち探検、サバイバルキャンプ、交通安全教室やつかどまつり、夏休みのラジオ体操などにおいても、地域の方々、児童館、消防署、警察署、PTA、おやじの会など、様々な大人が学校に集い、児童と触れあう多くの機会を作っている。この触れ合いが児童の中に「感謝の気持ち」を育む大切な要素を担っている。地域社会は子どもたちの学びと成長の糧と

なり、社会へのつながりを作る役割を担っている。このことを児童及び保護者は理解し、自らの地域の一員であることを自覚し、感謝の気持ちをもって行動する。このような地域と学校との関係を築けるように、引き続き地域連携の教育活動も大切に続けていただきたい。

4. 学習指導について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「学ぶことが楽しい」	80%	19% / 1 %
保 独	「子どもは楽しく授業に取り組んでいる。」	81% (1P↑)	12% (4P↓) / 7% (3P↑)
児 独	「授業では、めあてに向かって最後まであきらめずに学んでいる」	82% (9P↑)	16% (6P↓) / 3% (2P↓)
児 共	「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」	80% (4P↑)	16% (1P↓) / 3% (3P↓)
保 共	「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」	61% (5P↓)	15% (2P↓) / 24% (7P↑)
児 共	「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」	88% (12P↑)	8% (12P↓) / 3% (→)
保 共	「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」	76% (1P↑)	10% (3P↓) / 14% (1P↑)
児 独	「タブレット端末を使った授業は楽しい」	92% (3P↑)	6% (4P↓) / 2% (→)
児 共	「私は、家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている」	69% (5P↑)	18% (5P↓) / 13% (→)
保 共	「子どもは家庭で自主的に学習をしている」	57% (1P↑)	42% (1P↓) / 1% (→)
児 共	「私は、塾で学習をしている」	62% (2P↑)	32% (3P↓) / 6% (1P↑)

今年度からの新しく加わった児童共通項目「学ぶことが楽しい」の設問への肯定的回答は80%で、否定的回答は19%という結果となった。「子どもは楽しく授業に取り組んでいる」の設問への保護者全体の肯定的回答は1P↑81%と昨年とほぼ変わらないが、2年生が7P↓75%、4年生も7P↓77%と下げ幅が大きく、否定的回答の全学年平均も4P下がってはいるが12%あり、この点は見逃してはならない点である。学びを豊かにするには、

まず「学ぶことが楽しい」と思えることが大切であり、それを阻害している要因を明らかにし、早急な対応をお願いしたい。

児童独自項目「授業では、めあてに向かって最後まであきらめずに学んでいる」の設問の肯定的回答は9P／82%と高い数値となっており、授業中に多くの児童が根気強く学んでいることがわかる。一方、否定的回答も6P＼16%にはなったが、決して少ない数値ではないので、この層の児童のサポートも引き続きお願ひしたい。

児童の独自項目「タブレットを使った授業は楽しい」の設問での肯定的回答は昨年度から3P／92%と非常に高く、5、6年の多くの児童が上手にタブレットを使いこなしている様子がうかがえる。しかし、タブレットの活用については、保護者への任意のアンケートの回答から「宿題がどの程度できているか家庭で把握できない」「毎日持ち帰るにはカバーが重すぎる」「電磁波の影響が心配」「低学年の児童への身体的負荷」「視力の低下」「自宅でYouTubeばかり見ている」「子どもが画面ばかり見ている・いつでも見られる状態は健全とは思えない」等、不安の声も多くあがっている。これらについては、使い方も含め学校でも一つ一つに対応し、説明をしたり注意を促したりはしているが、世田谷区全体としての考え方や方向性を、不安をかかえる保護者にきちんと伝わるよう教育委員会でも細やかな対応がなされるよう検討していただきたい。

また、

「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」

「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」

「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」

「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」

上記の4点の質問は、「工夫」の基準が不明瞭なので、児童も保護者も評価を行うのが難しい。どの学年でも、黒板、タブレット、プリントの使う場面は、最適を見極めて使う工夫をされており、児童や保護者が先生方のその判断を「工夫していること」として評価を行えるのかは難しいのではないか。「黒板の書き方やプリントがわかりやすい」、「授業で取り入れている映像やタブレットを使った学習はわかりやすい」などの質問の方が、学習指導を評価するには適切と思われる。上記4項目については、一昨年も昨年も変更を本評価にて伝えており、早急な質問内容の改善を教育委員会にお願いしたい。

家庭での学習については、「家庭で宿題やe-ラーニングでの学習をしている」の設問での児童の肯定的回答は5P／69%となったが、学校の授業時間中や空き時間などで済ませている児童もいることから、この数値の増減だけで宿題などの学習について判断するのは難しいと思われる。

「子どもは家庭で自主的に学習をしている」の設問では、保護者の肯定的回答は1P／57%という結果であった。特に2年生から3年生に進級したところでは8P／63%となっ

ており、家庭での学習意欲の増加が見られた。逆に、4年生から5年生に進級したところでは7P\48%と下がっているが、「私は、塾で学習をしている」の設問への5年生児童の肯定的回答が62%とかなり高くなってきており、この部分の影響が出ている可能性も否めないだろう。

日々の授業、学校生活、学校行事などあらゆる場面において、児童がわくわくしながら学べる環境を学年全体で整えられるように、先生方も年間の目標を定めて努力されており、児童に対するこのような熱心な取り組みが、学習指導において全体的に高い評価につながっていると言える。

5. 生活指導について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「私は、学校のきまりを守って行動している」	80% (2 P\)	18% (2 P\) / 2% (5P\)
保 独	「子どもは、きまり（学校・家庭・地域）を守って生活している」	88% (1 P\)	9% (→) / 3% (1 P\)
地 共	「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」	80% (15 P\)	13% (7 P\) / 8% (8 P\)
保 共	「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」	75% (1 P\)	10% (→) / 15% (1 P\)
保 共	「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」	80% (3 P\)	9% (→) 11% (3 P\)
児 共	「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」	78% (6 P\)	19% (5 P\) / 3% (1 P\)
児 共	「先生に注意されたことは理解できる」	93% (2 P\)	6% (2 P\) / 1% (1 P\)
児 独	「学校の中で、積極的にあいさつをしている」	90% (8 P\)	8% (9 P\) / 0% (1 P\)
児 独	「学校の外でも、知っている人に挨拶をしている」	84% (2 P\)	15% (2 P\) / 1% (→)
保 独	「子どもたちは、地域の方々に挨拶をしている」	60% (3 P\)	27% (5 P\) / 14% (3 P\)
地 独	「子どもたちは、自分からあいさつができる」	50% (15 P\)	42% (7 P\) / 8% (8 P\)

きまりやルールを守ることについては、児童・保護者・地域とも 80%以上が守れていると認識しているが、交通ルールの順守についての地域の評価は、肯定的回答が 80%であったものの、昨年度からは 15P の大幅な減少となっている。児童への設問が「学校のきまりを守って行動している」となっているので、この設問への回答自体が「学校内のきまり」という認識となってしまっている可能性は否めないが、自分の身を危険から守る最も大切な交通ルールについても、「学校のきまり」として認識し、行動することの大切さを学校・家庭・地域で連携し、繰り返し伝えていく必要があるようだ。

「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の設問への保護者の肯定的回答は全体では 1P\75%ではあるが、学年ごとに見ると 2 年生は 10P\67%、4 年生は 7P\77%と減少し、3 年生は 5P\78%、5 年生は 9P\73%と増加するなど、学年によってかなりのばらつきがあった。また、「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」の設問への保護者の肯定的回答は全体では 3P\80%、学年ごとに見ると、2 年生は 7P\76%、4 年生は 9P\75%と、ここでもこの 2 学年の低下が気になった。「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」の設問への児童の肯定的回答も 7P\78%とやや下がっているのも心配なところだ。一方、「先生に注意されたことは理解できる」の設問への児童の肯定的回答は 2P\93%、5 年生は 98%と非常に高い数値となっており、先生の注意の仕方が適切であるということがわかる。このことから、先生が見ているところで注意されたことはきちんと理解できているものの、先生が見ていない、見えていない、注意されないところではルールが守られずにいるのではないだろうか。ルールを守らないと事故につながるという認識をもたせ、地域や家庭も一体となって子どもたちが安心・安全に過ごせるよう指導していくなくてはならないだろう。

挨拶については、8P\90%の児童が学校内で積極的にあいさつができるようになっているようだ。これは、1 年生や 6 年生が自主的に行った挨拶運動の成果でもあるだろう。学校外においても、2P\84%の児童が知っている人に挨拶をしていると回答している。保護者も、地域での児童の挨拶は全体で 2P\60%ができていると回答しているが、2 年生の保護者の肯定的回答は 9P\57%、5 年生は 7P\49%とやや低い結果となっている。これに対し、3 年生は 11P\59%であった。今年度 3 年生は、総合の時間で JA、自動車学校、ガスタンク、芦花高校などの見学に行き、地域との関わりを持つ機会があり、そこで「地域」の温かさを認識したことが、自然に挨拶ができるようになったことに繋がったのではないだろうか。こうした地域でのつながりを意識し、自然と挨拶ができるようになるためにも、保護者も地域とつながりを持ち、学校、家庭、地域で連携して、挨拶の大切さを児童に伝えていく必要がある。

6. キャリア教育について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」	80% (11P↑)	16% (7P↓) / 4% (4P↓)
保 共	「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」	45% (1P↓)	21% (2P↓) / 34% (3P↑)
児 共	「目標を持ち、その実現に向けて努力している」	84% (4P↑)	14% (1P↓) / 3% (2P↑)
保 共	「本校の教員は、子どもに目標を持たせ、その実現のために支援している」	60% (3P↓)	18% (2P↑) / 23% (1P↑)
児 共	「学び舎の中学に行ったり、中学生が来たりする機会がある」	70% (20P↑)	20% (9P↓) / 10% (10P↑)
保 共	「本校は、近隣の（幼）・小・中で構成する学び舎による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」	59% (20P↑)	16% (13P↓) / 25 (7P↓)

「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」の設問では、児童の肯定的回答は 11P↑80% となった。「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」の設問への保護者の肯定的回答は、全体平均では昨年とほぼ変わらず 45% と低い結果だったが、学年ごとに見ると、2 年生保護者の肯定的回答が 9P↓37%、6 年生は 15P↑69% となっている。将来のこと考え始める高学年の児童が、先のことを意識して学んでいるところは高く評価したい。

また、キャリア教育については、「授業があるかないか」で考えてしまうと否定的回答がやや多く出てしまうのかと思うが、社会のしくみを学んだり、異学年との交流、地域やいろいろな人の話を聞いたり、本を読んでさまざまな人の生き方を知ったりすることで、将来へのイメージが湧くこともある。また、ロイロノートを活用したワークシートやキャリアパスポートの活用、総合的な学習の時間、道徳の時間などでの自分自身の振り返り、なりたい自分を意識させる機会など、授業以外でも多くの機会が持たれており、いろいろな機会で先生方もキャリア教育につながる問い合わせをしているようだ。昨年度も申し上げたが、本設問についても、「考える授業がある」→「考える機会がある（学校で考える時間がある）」などに変更していただけるようを教育委員会にお願いしたい。

児童の「目標を持ち、その実現に向けて努力している」の設問での肯定的回答は、4P↑で 84%、一昨年度からは 9P↑ となった。「本校の教員は、子どもに目標を持たせ、その実現のために支援している」の設問での保護者の肯定的回答は 3P↓60%、否定的回答は 2P↑18% となった。この設問でも、2 年生の肯定的回答が 9P↓49% となり、全体平均

でも保護者の評価は下がっているのは気にかかるところではあるが、大半の5、6年の児童はきちんと目標を持ち、実現に向けて努力しているので、そこについてはさほど心配はないと思われる。しかし、目標を持つことが出来なかったり、努力が難しく感じている18%の児童への配慮は、よくよく検討してフォローをお願いしたい。

「学び舎の中学に行ったり、中学生が来たりする機会がある」の設問では、児童の肯定的回答は20Pの70%、6年生では5年生時の回答39%から38Pの77%と非常に高い数値となった。「本校は、近隣の（幼）・小・中で構成する学び舎による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の設問への保護者の肯定的回答も、20P/59%。1年生の77%という高評価に加え、2年生から6年生までのすべての学年で肯定的回答が飛躍的に増大した。今年度、6年生が近隣中学で授業体験をさせてもらったことが、この評価にかなり影響していると思われる。6年間という長い小学校生活から、新たな一步を踏み出すイメージも付き、中学生になるという不安も軽減されることから、この機会は是非今後も続けて行っていただきたい。また、近隣の保育園からも、未就学児が交流する機会を設けたことで、他の学年でも未就学児から小学生、そして中学生と繋がるイメージが意識できるよい機会となっている。職場体験でなどで中学生が小学校の仕事を体験しに来たりしていることも、中学生を身近に感じられるよい機会となっているようだ。長年低評価だったこの項目が、今年度やり方を改善することによって評価が飛躍的にあがった。

このことは非常に高く評価したい。今後も、多くの交流の機会が引き続き設けられることを願います。

7. 教職員について

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」	91% (1P↑) / 4% (2P↓)	5% (4P↓) / 10% (4P↑)
保 共	「本校は、丁寧に指導している」	80% (6P↓)	11% (3P↑) / 10% (4P↑)
児 共	「先生たちに相談できる」	80% (11P↑)	17% (10P↓) / 4% (→)
保 共	「本校は、子どものことを相談しやすい」	77% (2P↓)	16% (1P↑) / 8% (3P↑)

「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」の設問では、5年生児童の肯定的回答が93%、6年生も89%と高い評価であった。しかし、保護者の回答は、1年生では89%と非常に高い評価だったが、その他の学年（2～6年生）については、すべての学年で肯定的回答が減少した。特に、2年生は26P↓64%、その他の学年でも5～8%の減少となっ

ている。今年度、2年生はクラスの人数がもともと多くなってしまっていたうえに、途中転入などによりさらに人数が増え、目を行き届かせることができがかなり厳しい状況にあったようだ。

実際に先生方にもヒアリングを行ったが、各学年とも、児童に対し丁寧で細やかな指導を行いたい思いはあるものの、ケアが必要な児童や指導とは関係ない会計などの事務作業も多く存在し、なかなか時間が作り出せない状況が発生してしまうこともあるようだ。児童の学びの環境を整えるため、各校に会計業務を担当する事務員を配置するなどして、教員でなくてもできる事務作業、会計作業の負担を軽減していただきたくことを教育委員会に強くお願いしたい。

「本校は、子どものことを相談しやすい」の設問への保護者の肯定的回答は全体では2P\77%だが、学年別で見ると2年生は33P\56%、3年生も6P\79%であった。一方、肯定的回答が増加したのは6年生で10P\86%であった。これに対し、「先生たちに相談できる」の設問への児童の肯定的回答は、11P\80%という高い評価となったが、否定的回答は9P減少したものの、5年生で10%、6年生で25%の児童が相談しにくさを感じている。先生方は、児童が相談しやすい休み時間などは、テストの採点、委員会活動のサポート、校庭や体育館などの見守りの当番などもあり、担任以外の業務量も非常に多く存在し、クラス内のこと常に目を向けていたい気持ちがあっても、現実は難しいところがある。児童が相談しやすい環境を作るには、前述した教育業務ではない仕事（書類の整理や学年の会計業務、休み時間の見守りなど）を別でサポートしてもらえるような予算を学校に付けていただく、教育の質は落とさずにICTを活用し負担を軽減できるような仕組みを検討するなど、まずは教員の日常業務量の軽減改善が早急に必要と思われる。この点は、昨年度も教育委員会にお願いをしているが、今年度も引き続き世田谷区全体での大きな改善として切にお願いしたい。児童が気軽に相談ができず、問題が深刻化してしまってからでは解決が困難になる場合もある。悩みを抱える児童や保護者を見落とすことなく、できる限り相談しやすい環境と、先生方が話を聞くことができる環境の両方が整えられることを願う。

8. 学校からの情報発信について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 共	「本校は、様々なお便りなどで、保護者に情報を提供している。」	92% (→) / 3% (2P\)	6% (→) / 3% (2P\)
保 共	「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」	85% (5P\)	9% (3P\) / 6% (1P\)

保 独	「学校は、日常の教育活動について知ら せている」	81% (6 P↓)	11% (3 P↗) / 9% (3 P↗)
保 共	「本校は、学校公開や保護者会などで、 児童の様子がわかる」	92% (1P↓)	6% (8 P↓) / 1% (2 P↓)
地 共	「学校からのお知らせ（学校だより）な どにより、学校の様子がわかる」	92% (8 P↓)	8% (8 P↗) / 0% (→)
地 共	「学校のホームページに、学校からのお 知らせや学校生活の様子がわかる情報が 掲載されている」	71% (17P↓)	8% (8 P↗) / 21% (9 P↗)
地 独	「本校はホームページや学校だよりなど で、地域に情報を提供している」	83% (5 P↓)	8% (2 P↗) / 8% (2 P↗)
地 共	「学校公開や道徳地区公開講座などで学 校の様子がわかる」	83% (11P↓)	8% (8 P↗) / 8% (2 P↗)
保 共	「学び舎の区立（幼稚園）中学校につい て情報が提供されている」	33% (7 P↓)	36% (2 P↗) / 31% (6 P↓)
地 共	「学び舎の活動について、情報が提供さ れている」	71% (5 P↗)	21% (2 P↓) / 8% (4 P↓)

保護者や地域共に、学校からの情報提供として最も目にしているのは昨年同様いずれも肯定的回答が90%を超えた「おたより」であった。昨年度はホームページやメールからの情報もほぼ同程度の高評価であったが、ホームページに情報を取りに行く習慣がないと、その方法では情報が伝わりにくいこともあり、その点が情報提供に対して全体的な評価の低下に繋がっているのかもしれない。保護者からの任意アンケートには、すぐーるで閲覧できるものを増やして欲しいという声もある一方、学校には紙で配付して欲しいという声も寄せられており、現在はその両方を行っているが、大規模校なだけに情報発信を統一する難しさがあり、この調整は今後の課題であろう。地域からも、紙配布にはタイムラグがあるので、すぐーるの地域チャネルでの配信も検討していただきたいという声もあがっていた。こちらも、次年度に検討をお願いしたい。

また、学校公開や保護者会、道徳地区公開講座などの行事が年に数回家庭や地域に広く公開されている。児童の学校生活の様子や学校内の様子を実際に見ることができるこのような機会が比較的多く設けられており、多くの保護者が足を運んでいる。次年度から土曜授業が無くなることにより振替休日対応などの問題が生じるが、引き続きこのような機会は大切にしていっていただきたい。

「学び舎の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている」の設問への保護者の肯定的回答は7P↓33%と依然としてかなり数値は低いが、前述した6年生が中学校で授

業体験をしたり、未就学児が小学校に交流しに来たりなど、子どもたち自身の体験を通じ、子どもたち自身が情報を得る機会は増えているので、子どもを通じての情報が家庭にも行き届くようになることを今後期待したい。

9. 学校と家庭との連携について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 共	「私は、学校公開にすすんで参加している」	92% (2 P↗) / 1% (→)	6% (3 P↘) / 3% (1 P↗)
保 共	「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している」	65% (1 P↗)	32% (2 P↘) / 3% (1 P↗)
保 独	「学校は、授業以外にもタブレット端末をうまく活用している」	63% (7 P↘)	22% (→) / 15% (6 P↗)

学校公開には、多くの保護者が積極的に参加をしているようだが、学校行事、PTA や地域主催行事への協力には半数以上の肯定的回答があるものの、やや積極性には欠けているようだ。コロナ禍のさまざまな行事の中止で、かつての様子を知らない人も増え、人との繋がりが薄くなってしまったところもあるのかもしれない。学校・家庭・地域での交流が盛んに行われることは、家庭や地域での教育力の向上、子どもたちのよりよい学びの環境や、子どもたちが安心安全に過ごすことのできる地域社会づくりの支えにもつながる。学校・家庭・地域の一人ひとりが大切さを認識し、多くの家庭が少しづつでも地域社会と関りを持ち、協力していくけるような雰囲気が今後も保ち続けられることを願う。

「学校は、授業以外にもタブレット端末をうまく活用している」の保護者独自項目への肯定的回答は 7 P↘ 63%、否定的回答は 22% であった。タブレット端末の活用については各家庭の考え方も異なるので難しい部分もあるが、学校と家庭とで調整しながら上手な活用方法を見出し、教員の業務の軽減および利用者の利便性の向上が図れるように、専門職員によるサポート時間の増加が望まれる。これを実現するための世田谷区全体での取り組みを要望する。

10. 地域との連携について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 共	「本校は、地域に情報を提供している」	55% (4 P↘) / 36% (4 P↗)	9% (→)

地 共	「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」	67% (9 P↓)	13% (1 P↗) /21% (9 P↗)
地 共	「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」	67% (10P↓)	13% (13P↗) /21% (3 P↓)
地 共	「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」	75 (2 P↓)	4 % (2 P↓) /13 (5 P↗)
保 共	「本校は、地域の活動などに協力的である」	70% (→)	6 % (2 P↓) /24 (1 P↗)
地 独	「本校は、地域との連携に努め、地域の活動に協力的である」	75% (2 P↓)	13% (5 P↓) /13% (7 P↗)

教育活動における地域との連携においては、重点目標のウで述べたので、ここではそれ以外について述べる。

今年度は昨年度よりもアンケートの対象者を 12 名増やし、関係者に幅広く協力を求めた。その結果回答数は 8 名（データ入力締め切り後も含めると 11 名）増え、41% (47%) の回答数を得たが、地域との連携について、すべての項目で肯定的回答が減少してきているのが気になるところである。次年度は創立 150 周年を迎えることもあり、学校運営委員会や学校協議会の開催など、地域との連携の再確認の場を多く持っていただけるようお願いしたい。

11. 学校の安全性について

	設問	肯定的回答	否定的回答
保 共	「本校は、安全な学校づくりを進めている」	74% (6 P↓)	12% (1 P↗) /14% (5 P↗)
地 共	「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」	96% (1 P↗)	0 % (→) / 4 % (2 P↓)
保 共	「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」	92% (2 P↓)	4 % (2 P↗) / 5 % (1 P↗)
保 共	「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」	80% (→)	10% (1 P↗) /10% (→)
地 共	「学校は安全性を高めようと、地域と協力している」	88% (11P↗)	0 % (→) /13% (11P↓)

昨年度やや評価の低かった「学校は安全性を高めようと、地域と協力している」の設問

への地域の肯定的回答は 11P↗88%と改善されたが、「本校は、安全な学校づくりを進めている」の設問への保護者の肯定的回答の減少がやや心配な評価となった。全体の平均では、肯定的回答が 6 P↘74%だが、2年生から5年生までのすべての学年で 5 P 以上肯定的回答が減少した。今年度校内の安全対策は強化され、保護者への協力も周知されてきている。本評価は学校 HP 公開なので詳細は記載できないが、安全面での穴は無いわけではない。ここに関しては、すでに世田谷区に申し入れはされているので、世田谷区での早急な対応をお願いしたい。

安全面については、地域の方々（TAP の方々）が毎朝児童の通学路全体で登校の見守りをしてくださっていたり、自治会による避難所設営訓練なども定期的に行われている。入学式・運動会・卒業式などの大きな行事の前に学校周囲の花壇の花の植替え、長期休みなどの水やりをボランティアでくださっている地域の方々も、常に子どもたちのことを気にかけ、それぞれが温かい応援を送ってくださっている。より安全な体制を整えるためにも、引き続き、学校が家庭や地域との連携を深めていけるようお願いしたい。

12. その他

	設問	肯定的回答	否定的回答
児 共	「学校が好き」	79% (10P↗) / 2% (4P↘)	19% (6P↘) / 2% (4P↘)
児 独	「困った時に、話を聞いてくれる人がいる」	94% (4P↗)	4% (4P↘) / 2% (1P↘)
児 独	「運動することが楽しいと感じている」	84% (4P↗)	16% (3P↘) / 0% (→)
保 独	「子どもは運動することが好きである」	80% (3P↗)	18 (5P↘) / 2% (1P↗)
保 共	「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」	74% (9P↘)	20% (7P↗) / 5% (1P↗)

前述の「学校生活は楽しい」の設問への児童の肯定的回答は 5P↗89%で、否定的回答は 6P↘9%とかなり低くなっているが、「学校が好き」の設問となると、児童の肯定的回答は 10P 増加はしているものの 79%、否定的回答もこの数年増加傾向にあったところから 6P 下がったものの 19%と、以前としてやや大きい数値が残っている点は、気がかりである。また、「困った時に、話を聞いてくれる人がいる」の設問への児童の肯定的回答は 4P↗94%、わからないを含む否定的回答は 5P↘6% であった。今年度 6 年生で行われた「SOS の出し方」の授業などの影響もあってか、様々な問題を心に抱え、学校を好き

になれない、また、困った時に話を聞いてもらえる人も思い当たらない児童が減少したことは多いに評価できる。しかしながら、この設問に関しては否定的回答が0%となるよう、今後も注視していただくとともに、困っている児童がどこか1つでも相談できると思える場所が思い浮かぶよう、継続的に細やかな対応をお願いしたい。

「運動することが好きで楽しいと感じている」児童は4P\84%、否定的回答は3P\を16%であった。「子どもは運動することが好きである」の設問への保護者の肯定的回答も3P\80%に増加しているが、「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」の設問の保護者の肯定的回答は、全体平均でも9P\74%、否定的回答は7P\20%という結果となった。この項目では、2年生以上のすべての学年が昨年度よりも6~12P否定的回答が増加している。コロナ禍が明け、運動することの楽しさは戻って来てはいるが、積極的に身体を動かすことに楽しみを感じるところにまでは、十分に達していないようだ。学校では、今年度は1学期にステップダンス、2・3学期に長縄チャレンジを行い、小さなスペースで楽しみながら運動することや、仲間と協力して取り組み成し遂げることの面白さを教えている。家庭でも、こういった学校での取り組みに注目し、子どもたちに声かけやサポートをすることで、子どもたちの自尊感情を高め、運動を通じて仲間の頑張りに共感し、「じぶんっていいな ともだちっていいな」を見つけながら、楽しく運動に取り組む姿勢を身に付けられるように導いていただきたい。

また、校庭での遊び場教室においても、「走り方教室」や「野球教室」、「サッカー教室」、おやじの会との「つかど逃走中」などのイベントが行われている。このような機会や校庭の遊び場解放なども利用しながら、運動が好きになる児童が増えていくことを願う。

13. 学校関係者評価委員会としての総評

今年度も昨年度に引き続き、学校・保護者・地域、それぞれのご理解とご協力により、多くの子どもたちは豊かな学校生活を過ごすことができました。アンケート結果は、児童・保護者・地域ともに概ね全体としては昨年度とさほど変わりない結果ではありました。が、学年での回答のばらつきが目立ったように思います。学校生活、学校行事などの項目においては、引き続き非常に高い評価が得られていましたが、一方で「本校は、子どものことを相談しやすい」「本校は丁寧に指導をしている」などの項目の肯定的回答が減少してきている点は、やや心配である。

もともとの評価が高かったこともあるが、保護者共通項目「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の設問での肯定的回答も6P\82%、2つの学年で10P以上肯定的回答が減少している。「本校の教育活動に満足している」の設問への肯定

的答も 3P\80%で、3つの学年で 5P 以上肯定的答が減少している。

今年度も先生方のヒアリングを行いましたが、先生方の教育活動に対する意識はとても高く、学年団で協力し、よりよい教えや導きがすべての児童に行き渡るような取組みがされていました。今年度から新設された特別支援学級（みのり学級）も、細やかな配慮と丁寧な指導がされ、児童たちにとってよりよい環境を常に考え、作り出してくださっていました。このように、先生方が教育に対する熱意に溢れている一方で、クラスのこと、学年のこと以外の業務（休み時間の看護当番・学年での会計や事務手続きなど）も数多くあり、その業務によって、児童とじっくり向き合う時間がやむを得ず削られてしまっているのが現状です。

学校関係者評価で問題点を考察し、次年度の課題として伝えることは容易なことではありますが、課題解決は教育業務以外の業務の簡素化や教員の増員などが行われない状況の下では非常に困難なことと考えます。現状での業務削減には、児童の安全に関わる問題もあり、現行の状況のままで業務の一部を削減していくには限界があります。今年度は、肯定的な評価の減少が部分的に見られましたが、先生方がこのような負担が大きい中で積み重ねてきた多くの努力という土台があり、塙戸小学校の教育活動を支えてくださっています。この努力を活かし、より充実した教育活動と学校運営を行うために、また、何より将来を担う子どもたちのために、150 周年を迎える次年度も、学校・家庭・地域が一丸となって子どもたちの学びを支えていけるよう、現状の理解と一層のサポートを行政にお願いしたい。

任意の追加記述アンケートについても、問題点は学校とも共有し、改善につながるようにしていきたいと思いますが、日々の不満や不安をこのアンケートでしか話す場がないというのは大変残念なことであり、直接相談できるような関係づくりが今後に向けて必要であると思われます。

今年度の重点目標「わくわくしながら探究する学び（感動）」「他者の思いや考えを認め合い、尊重し合う学び（共感）」「社会（人）の役に立つ喜びを実感する学び、人とのかかわりを感じる学び（感謝）」については、学年の団結力、学校全体での団結力により、意識してこれらに取り組んでいただいた結果、その達成度は非常に高かったと思われます。すべての児童に対して、深く、広く、丁寧に接することは理想ではありますが、現実問題、100%すべて行うのは不可能に近いことです。ただ、この塙戸小学校を中心に、できるだけ多くの大人たちが子どもたちに關り、成長をサポートしていけるよう、学校生活に不安を抱えている児童や家庭に対して取りこぼしがでないよう、学校関係者評価によって少しでも改善がされていくことを願うとともに、今後も学校・家庭・地域の連携を大切にした学校運営を行っていただけるよう願います。